

ワット・ビスンNo.22の修復

身延山大学 柳 本 伊左雄

修理・復元方針等

ワット・ビスンNo.22については今年度修復予定に含まれていなかったが、仏像修復テキストの新たなモデルを必要としていた為、急遽修復を行う事となった。

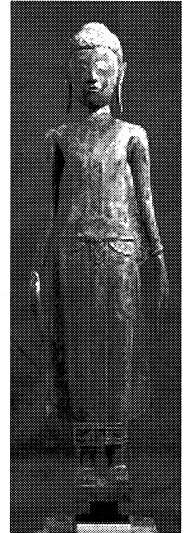
No.22を選択した主な理由として、欠損・欠落部分の修理・復元を積極的に行う方針から、ラオス仏像に多く見られる先端部分(手・足・台座等)の修復モデルとして適当と考えた事と、サイズが適当である為である。

修理・復元部分については金箔古色仕上げを施し、その他については現状のままとした。

頭頂部チョムケーの復元に関しては調査研究が進んでいない為今回は行わない。



ビスンNo.22
修復前



ビスンNo.22
修復後

仕様

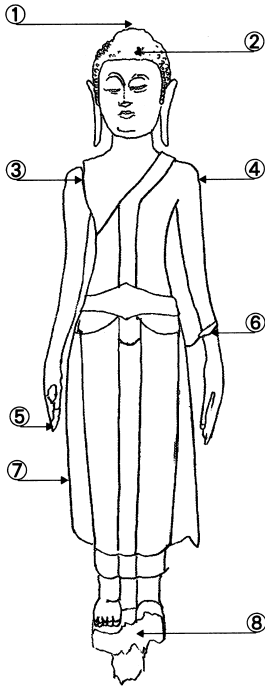
所 在：ラオス ルアンプラバン ワット・ビスン 本堂内

材料種類：木彫 マイサック

形 状：コーホン

サイズ：H 104.7cm W 30.3cm D 13.6cm

破損箇所



- ① チョムケー欠落
- ② ラホツ（ケー）欠落
- ③ 右肩接続部分の割損
- ④ 左肩ダボ部分の欠損
- ⑤ 右手第1指～5指まで欠損
- ⑥ 左手首割損
- ⑦ 右裳裾欠損
- ⑧ 左足先から台座前部欠損

修復状況

- ① チョムケー欠落

チョムケーに関しては調査・研究を行っていない為、現在、修復の予定なし。

- ② ラホツ（ケー）欠落

次回カモクによる修復予定。

- ③ 右肩接続部分の割損

割損した腕部ジョイント部分を補強し、エポキシ系接着剤にて改めて本体と腕部を接合した。

下地に漆を塗り、金箔を押して古色に仕上げた。

- ④ 左肩ダボ部分の欠損

欠損部分にエポキシ系木工パテを盛り付け成形し、下地に漆を塗り金箔を押して古色に仕上げた。

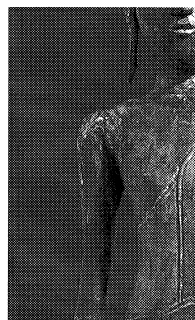
第9回ラオス世界遺産仏像修復プロジェクト報告



右肩修復前



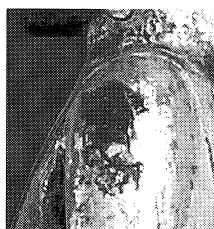
右肩接合



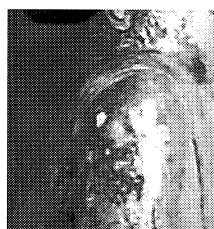
右肩修復後



ダボ部分修復前



ダボ部分漆下地

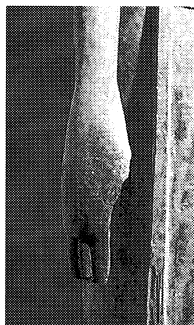


ダボ部分修復後

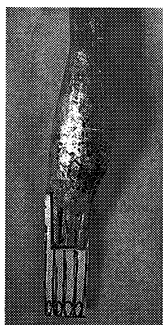
⑤右手第1指～5指まで欠損

木材にて欠損部分を復元し金箔を押ししてから古色に仕上げた。

復元については、同No.22左手を参考とした。



右手修復前



右手指接合



右手修復後

⑥左手首割損

エポキシ系接着剤にて割損部分を貼り合わせ、木ダボにて補強した後、金箔を押し古色に仕上げた。



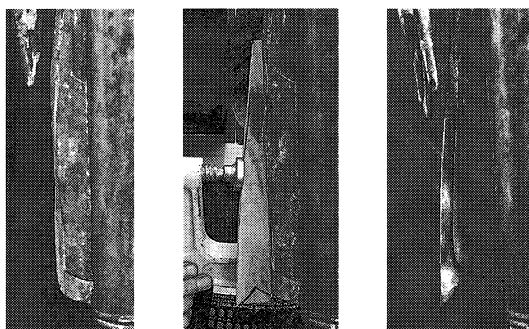
左手修復前

左手接合・ダボ補強

左手修復後

⑦右裳裾欠損

木材をエポキシ系接着剤にて欠損部分に接合し復元を行い、金箔を押し古色に仕上げた。復元については、同No.22左裳裾を参考とした。



右裳裾修復前

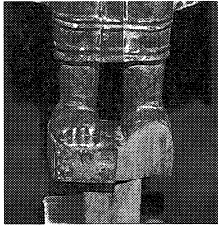
右裳裾接合

右裳裾修復後

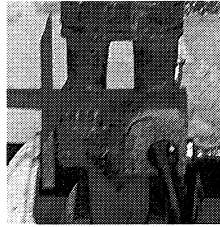
⑧左足先から台座前部欠損

エポキシ系接着剤と人口木材を使用して欠損部分に木材を接合、復元を行う。金箔を押し古色に仕上げる。復元については、同No.22右足先を参考とした。

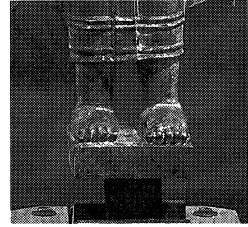
第9回ラオス世界遺産仏像修復プロジェクト報告



左足先・台座修復前



左足先・台座接合



左足先・台座修復後

使用材料

種 類	名 称	備 考
材木	マイサック	03年2月、丸太材にてルアンパパーン地区（山林）より購入。
漆	ナムキャン	06年2月、ポートン氏ビエンチャンにて購入。タイよりの輸入品と聞く。
漆增量材	キタオ	04年、ポートン氏ビエンチャンにて、菩提樹の枯れ木より作成。
漆溶剤	ナマニャーン	04年、ポートン氏ビエンチャンにて購入。
漆溶剤	灯油	08年2月、ルアンパパーン地区購入。
接着剤	エポキシ系樹脂	07年9月、日本より持ち込み。
パテ剤	エポキシ系木工パテ	07年9月、日本より持ち込み。
金箔	タイ製・日本製併用	06年、ポートン氏タイより購入・06年、日本より持ち込み。